



記憶の中の教科書

北星学園創立百周年記念館

矢 島 あづさ

大正期の米国製教科書

スミス女学校創立の頃は、明治政府が欧米の知識、文化、技術を取り入れようとしていた時期です。その影響で、札幌では、どの書店でも洋書が売り切れるほど英学が流行していました。



教科書がない時代の教材とスタンプ

当館の資料で最も古い英語教材は、米国製の『THE BEACON READING CHART』(1913年)。印刷されたものの以外に、スタンプを押して作成したもの、手書きのものもあります。生徒の能力に合わせて、宣教師たちが手作りのものでしょう。

かなり前ですが、大正時代に使われていた英語の教科書



大正時代の米国製英語の教科書

その時から、私は当館の資料にまつわる個々の記憶に興味を持つようになりました。

昭和初期の日本製教科書

ムに入所されていて、「あなたが一番楽しかった場所に介護職員がお供します」というサービスを利用して来館されました。恩師や友人の名前を次々に口にし、意気揚々と語る姿を見て、介護職員の方は「普段とはまったく別人のようです」と驚かれています。

大正期や太平洋戦争後に使われていた米国製の英語の教科書は、当館にも数多く保管されていますが、昭和初期の日本製の英語の教科書は、存在すら知りませんでした。



昭和初期の日本製教科書 (英語、漢文参考図録)

驚いたのは、教科書に描かれたイラストのカラフルなこと。欧米の物語をはじめ、西洋式食事のマナー、クリスマスなどのテキストもありました。

輩から譲り受けた教科書を大切に使っていたのです。

自分たちで刺繍した校章

現在、星形の校章は制服のリボンの結び目に付けていますが、校章ワッペンを胸ポケットに付けていた時代もあります。1941年、制服がセーラー服からヘチマカラーの国民服へと代わる際、学内で校章のデザインを募集し、採用されたのが、星の左右に



裁縫教科書と戦時中の校章ワッペン

ライラックと北星の「北」を表現したものでした。当時、購買で図案入りの布を買い求め、自分たちで刺繍したそうです。

今回寄贈された裁縫教科書には、星の刺繍の仕方も載っていました。この教科書を見ながら、刺繍する生徒を想像すると、資料一つ一つが結びついていくような気がします。

